

建設産業 Construction

総合建設業 / コンクリート製造

「地図に残る仕事」の魅力、技術革新が確実に進む業界。

子どものうちに、さまざまな体験をすることが未来の仕事につながる。

建設業界の職業人講話は本来、さまざまな体験メニューが子ども達の興味を掻き立てるものです。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で出前講座の実施が困難になり、全ての授業が職業人講話となりました。

そんな中、講話にVR技術の活用のような新しい技術や話題を取り入れることは、現代の子どもたちに対応したものだといえます。

また、建設業界は今まさに変革の時期を迎えています。重機の高度化・ロボット化・巨大化、測量のドローンへの移行や、女性の進出、週休二日制の徹底など、より働きやすい環境の実現に向けて変わりつつあります。

建設業界の一番の魅力は「地図に残る仕事」だといわれます。実際に多くの業界人が「あのビル」の作業に関わった」「あの橋の鉄筋を提供

した」などの仕事について誇らしく語ります。本事業でも、自身が建設に携わった学校で「自分の会社がこの校舎を作った」と話した講師がいました（自分たちが日頃過ごしている場所だけでなく、子ども達も興味津々。「この校舎を造るのにいくらくらいかかるんですか」などの質問に、講師は少々困りながらも、誠実に回答していました。）。

これからも建設業界は、新たに生まれる道路、橋、トンネル、高速道路、モノレールの延長など、新しい景色を造り続け、それが新しい誇りとなっていきます。そのやりがいを伝えるために、職業人講話も、新しい技術や話題を取り入れています。

業界解説シート

日立建機「双腕仕様機 ASTAGO(アスタコ)」

業界解説

建設産業を知ろう!



いまのシゴト

- コロナでも建設業界は順調。高収入。
- 古い建設物の保守、リニューアルも進む。
- 県内でも巨大重機が活躍。
- 高度な数学、地域の文化理解が生きる現場。
- 女性作業員、外国人労働者が増加。

未来のシゴト

- 街は変わり続けるので、未来も重要産業。
- IT化、ロボット化が進む。オペレータが重要に。
- 自動運転対応道路など、最新技術への対応も。
- 日本の技術で世界で活躍できる。
- 宇宙ステーション、宇宙基地の建設も?

シゴトと勉強

学校の勉強とシゴトはいろいろ関係しています。

国語	算数・数学	理科	社会	英語
建設物を作るには大量の文書を作成・読解します。	構造計算には、高度な数学が必要です。	建設には、さまざまな科学知識が使われます。	地域に合った建築物には文化の理解が重要です。	現場には外国人が増えていきます。
美術・音楽	体育	コンピュータ	コミュニケーション	
建築家には美術センスが必要です。	建築現場では、体力と技術が必要です。	設計や重機操作には、コンピュータが使われます。	さまざまなスタッフが多数関わる現場で、コミュニケーションは重要です。	

建設産業は、家、道路、橋、学校、公園、空港などをつくるシゴト。必要な土木工事が行われ、資材や設備、建設機械を用意します。また、工事現場では警備会社が交通整理を行うことがあります。

家主や市町村が造りたいものを仕上げに、内装・水道・電気工事。建設会社や住宅メーカーが受注。出来上がった家や建物を、不動産会社や設計士が設計し、測量・

調査、構造計算が行われます。また、工事現場では警備会社が交通整理を行うことがあります。仕上げに、内装・水道・電気工事。建設会社や住宅メーカーが受注。出来上がった家や建物を、不動産会社が販売することがあります。

令和2年度 沖縄県雇用政策課 未来の産業人材育成事業 2021.03 ver.1.0

実施事例

VR で未完成物件の中を歩く。

徳元 猛 氏

光建設 代表取締役 / 沖縄県建設業協会
糸満市立南星中学校、同米須小学校、同大渡分校、同光洋小学校

父親が会社を創業し、子どもの頃から父親の働く姿を見ていた徳元氏。幼少期から「いつか自分も建設の仕事に携わりたい」と感じていました。「何もないところから新しいものが作り出されること、自分のスキルを磨いていけること」がこの仕事の魅力ややりがいであると語り、自社が手がけた住宅や公共施設の写真を見せ、児童も少しイメージできた様子。

建設会社は、「地域の町医者」でもあります。古くなった道路や堤防を直すこと、災害時に地域を守ることも大事なお仕事。

また、建設業の働き方改革にも触れ、ITやロボットによる作業の効率化、女性の働き手の増加、週休二日制の普及など、業界全体として働きやすい職場作りを目指していることも伝えました。



最後はVRを使い、「クラスみんなでバーチャルの家を作ろう!」の体験。子どもたちは自分の理想の家について意見を出し合い、画面上にはみんなで作った家が完成。最新の技術も体験することができました。

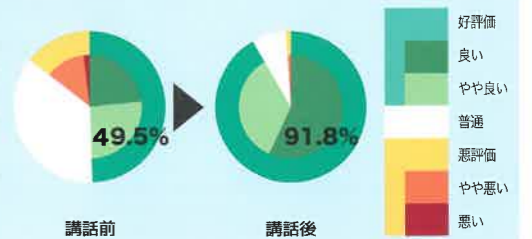


実施回数	10回
講師数	3名
講師	阿波根昌樹・大城壮二・徳元猛(敬称略・50音順)
協力団体	(一社) 沖縄県建設業協会 / (一社) 沖縄県測量建設コンサルタンツ協会*

*ご協力いただきましたが、講師派遣には至りませんでした。

アンケート集計

講話前には好印象が49.5%にとどまっていた建設産業は、講話後91.8%に、また、講話前「普通」だった印象が36.3%と非常に大きく、講話後7.3%に大きく減少しているのも特徴です。知る機会があれば、魅了が伝わる産業であるといえます。印象が「悪い」が0%になりました。現場で働く方の生き生きとした話を聞くことで、これまで何となく抱えていた印象が変わり、やりがいや楽しさ、建設産業の中にもさまざまな働き方があることを理解できたようです。



子どもたちのこえ。

建設の設計をやってみたいと思いました。/ 将来に向けて、これからいろいろなこと挑戦して行きたいです。建設では、自分が思う家をインターネットを使ってつくってみたいと思いました。/ 女性も増えてきているということが印象に残りました。(米須小・大渡分校) / 建築産業は最初はよくわからなかったけれど、VRで楽しく仕事をできることを知ったので楽しそうというイメージが変わりました。/ 建築産業は女性には向いていないと思っていたけれど、女性の社員もいると知りました。(光洋小) 建設業はいいイメージはなかったけれど、自分の知っているのは一部だけで、芸術的、文化的なものもあるんだと知りイメージがとても良くなりました。(東風平中) / 建物を建てるだけだと思っていたけど奥が深くやりがいがあると思った。/ 力仕事かと思っていたけれど、アイデアを出す仕事もあるんだと思った(小塚南小) / 建築産業の仕事にはとてもいろんな魅力がある。/ なんか木材じゃなくてコンクリートというところに興味を持った。/ 建設産業は楽しそう。今の日本の建築技術が分かった。(久部良中) / 建築は大変そうであまり興味がなかったけど、話を聞いたらすごさがわかった。/ コンクリートがその地域に合わせた模様(首里織り)になっていることがとても印象に残った(仲井真小) ものすごく達成感のある仕事だと感じました。前はくっつけて完成!というプラモみたいな感じと聞いていました。/ 仕事が29種類にわかれていると聞いて驚いた! チームワークがないとできないんだと思いました。(安謝小)